

## 第1学年 数学科学習指導案

1 単元名 平面図形 (啓林館 未来へひろがる数学1 p 143)

2 本時の学習

(1) 本時の目標 図形の移動の意味を理解し、どの移動を使えば合同な2つの図形をぴったりと重ねることができるかを、正しく答えることができる。  
【数量や図形などについての知識・理解】

(2) 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点・評価	備考
つかむ 5分	1 線対称、点対称、合同な図形の言葉の意味を確認する。	○裏返す、まわす、重なるといったキーワードを生徒から引き出し、フラッシュカードを黒板に貼っていく。	フラッシュカード
さぐる 5分	2 日本の伝統的な文様を見て気づいたことを出す。 ・同じ形がたくさんある(合同)。 ・図形が規則正しく並んでいる。  3 めあてを確認する	○日本の伝統的な文様についての写真を見せながら、図形の形や規則性に着目させて、気づきを出させる。  [本時のめあて] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2つの合同な図形をぴったりと重ねる方法について考えよう</div>	プロジェクト
深める 30分	4 課題に取り組む。  [課題] 「麻の葉文様」で図形アの三角形から「まわす」「裏返す」などを何回行えば、図形イ～エの三角形に重ねることができますか。	○どこを中心にして「まわす」をしたか、どこを折り目として「裏返す」をしたかを、意識させながら取り組ませる。  ○なるべく少ない回数で重ねられる方法を考えるよう、ポイントをカードで示す。  ○ペア活動は1人が操作をしながら手順を説明し、もう1人がなるべく少ない回数で「まわす」「裏返す」をしているかどうかを確認させる。  能動型学習 (ポイント) ①ペアで互いに、なるべく少ない回数で重ねられるよう考えながら説明し合い、対話的な学びを行うことで、移動について理解を深めることができるようする。	プリント 三角形模型カード ポイントカード
まとめる 10分	【言語活動】(設定の意図) 図形の移動について、より良い手順や方法を伝え合うことにより、その考え方を理解し、自分の考えを深めさせる。  (4)班でまとめた考え方を発表する。  5 本時のまとめをする。 6 適用問題に取り組み、学習を振り返る。	【評価: 数量や図形などについての知識・理解】《観察、プリント》 [2つの図形が重なる移動の方法と手順を理解している。] <B基準に達していない生徒への指導> ・ペアや班の考え方を使って説明するよう指導する。 徹底指導 (ポイント) ②移動の意味とその方法について全員で確認する。  まとめ: アの図形を1回「裏返す」とイと重なる。 アの図形を1回「まわす」とウと重なる。 アの図形を1回「ずらす」とエと重なる。 ある図形を、大きさを変えないで他の位置に移すことを「移動」という。	プリント